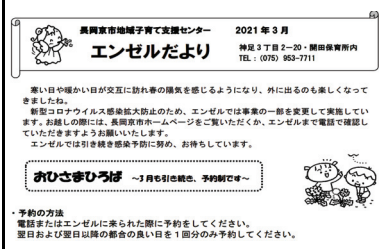


分野	11	産み育てる環境	<b>通番 1</b>
施策	111	子育て環境の充実	
<b>5年後の目標</b>		多世代が交流し、子育てについて学び、悩みを気軽に身近で相談できる環境が整っている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	<b>地域子育て支援拠点の充実事業</b>		会計	款	項	目	17,052,731	子育て支援課
			一般	3	2	1		
事業の概要								
<p>子育ての仲間づくりや育児知識の提供、育児不安の軽減や悩みの解消、虐待未然防止のため、ペアレントトレーニングに取り組むなど、当該事業のさらなる充実を図ります。</p> <p>また、親や子ども同士のふれあいと交流をさらに促進するため、既存の地域子育て支援センター4か所に加えて、新たな子育て親子の交流拠点の開設を検討します。</p>								

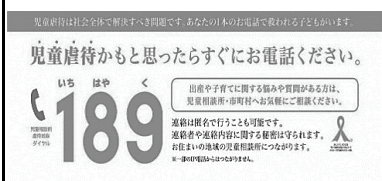
令和2年度の取組							
D (取組)	指標	子育て支援センター数				単位	カ所
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	2(平成26年度)	目標	2	4	4	4	4
		実績	2	4	4	4	4
<p>・中学校区ごとに設置された4つの地域子育て支援センターにおいて、親子が気軽に出かけることができ、子育て中の親子同士がふれあい、交流できる場を提供するとともに、育児相談などを行いました。</p> <p>・平成30年度から初めて子育てをする保護者を対象とした「親子の絆づくりプログラム(ベビープログラム)」を各センター運営のもと実施しています。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、ひろば事業や子育て相談等については予約制をとるほか、交流や講習会、アウトリーチ事業については、一部を中止又は例年と方法を変更して実施することとなりました。</p>						<p style="text-align: center;">エンゼルだより</p>  <p style="font-size: small;">       ・予約の方法        電話またはエンゼルに来られた際に予約をしてください。        曜日および曜日以降の都合の良い日を1回のみ予約してください。     </p>	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和2年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	評価指標の傾向・トレンド		対応頁
	子育てに「非常に不安や負担を感じる」と回答した割合	平成30年に実施した調査結果は4.7%であり、前回調査時(平成25年)より1.5ポイント減少しています。		192
	達成度合 A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<p>・4つの地域子育て支援センターを運営することにより、子育て中の親子に身近な育児相談の場や居場所、交流の拠点を提供し、育児不安の軽減につなげました。</p> <p>・初めて子育てをする保護者を対象とした「親子の絆づくりプログラム(ベビープログラム)」を実施し、55組の参加がありました(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、6クールのうち中止なく実施できたのは4クール)。</p>	
課題等	<p>・少子化や核家族化の進行とともにライフスタイルや働き方が多様化する中、子育て経験の継承や、身近で子育てスキルを得る機会が少ない状況にあります。また、子育て世代の転入も多く、地域でのつながりを築きにくい面があり、育児に不安や悩みをもつ保護者や地域で孤立した子育てを行う保護者が増えています。</p> <p>・令和元年度末からは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮しながらの事業実施が必要とされています。</p>			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
1: 計画通りに進めることが適当		<p>・引き続き地域子育て支援センターにおいて、子育て中の親子が集い、交流や育児相談ができる場の提供を行うとともに、子育て支援プログラムである「親子の絆づくりプログラム(ベビープログラム)」を実施します。</p> <p>・新型コロナウイルス感染予防対策を講じ、密を回避した事業実施に努めます。</p>

分野	11	産み育てる環境	<b>通番 2</b>
施策	111	子育て環境の充実	
<b>5年後の目標</b>		多世代が交流し、子育てについて学び、悩みを気軽に身近で相談できる環境が整っている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	<b>児童虐待防止事業</b>		会計	款	項	438,694	子育て支援課
			一般	3	2		
事業の概要							
児童虐待は社会的にも大きな問題となっており、児童に関する様々な悩みや不安に対応するため、家庭児童相談室が総合相談窓口となり、各関係機関と連携して、子どもの心身に深刻な影響をもたらす児童虐待の未然防止、早期発見に努めます。							

令和2年度の取組							
D (取組)	指標	児童虐待ケースの新規受理件数				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	84(平成26年度)	目標	90	89	前年度数値を上回らない	前年度数値を上回らない	前年度数値を上回らない
		実績	131	119	180	182	194
<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府家庭支援総合センター(児童相談所)など関係機関と連携し、児童虐待の未然防止、早期発見、要保護児童及び保護者の支援を行っています。</li> <li>・親子の絆づくりプログラム(ベビープログラム:生後2~4か月児の保護者対象)及び前向き子育てプログラム(トリプルP:小学生の保護者対象)を実施し、子育て支援を行いました。</li> <li>・子どもと家庭の相談窓口として、電話、来所相談を随時行い、虐待の未然防止につなげています。</li> </ul>					<p style="text-align: center;">児童相談所全国共通ダイヤル「189」</p>  <p>児童虐待は社会全体で解決すべき問題です。あなたの1本のお電話で救われる子どももいます。</p> <p>児童虐待かもと思ったらすぐにお電話ください。</p> <p>いっしょに早く</p> <p>出前や子育てに関する悩みや質問がある方は、児童相談所・市町村へお気軽にご相談ください。</p> <p>連絡は匿名で行うことも可能です。返答者や返答内容に関する秘密は守られます。お住まいの地域の児童相談所につながります。</p> <p>☎189</p> <p>児童相談所 189</p>		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和2年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待ケースの新規受理件数は微増しています。</li> <li>・内訳では、要保護児童177人(前年度166人)、特定妊婦17人(前年度16人)、計194人です。</li> <li>・警察から京都府家庭支援総合センターを通じた通告が最も多く、全体の50%以上を占めています。</li> <li>・虐待通告の内容別では、心理的虐待が全体の50%以上を占めています。これには、父母間のDVの目撃も含まれます。</li> <li>・平成30年度以降、新規受理件数は増加傾向にあります。救急要請や父母間のDVの目撃に係る警察からの通告ケースの増加や児童虐待防止への意識が高くなっていることが要因と思われます。</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待未然防止には、長岡京子育てコンシェルジュや地域子育て支援センターとの連携による親支援プログラムの実施など、妊娠・出産期から子育て期の切れ間ない取り組みが必要です。</li> <li>・児童虐待は様々な要因があり、個別性も高く、個々の状況に合った対応が求められます。児童虐待を早期発見し、適切な対応を行うため、今後も関係機関との連携強化が必要です。</li> </ul>			

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府家庭支援総合センター(児童相談所)や市の児童虐待アドバイザー等に助言を受けながら、ケースへの対応について関係機関や庁内関係部署と協議を行い、適切な支援を行います。</li> <li>・児童虐待未然防止のため子育て支援事業や親支援プログラムを継続して実施します。</li> </ul>